

エコアクション21 「環境経営レポート」 《2025年版》

(2025年1月1日~12月31日)



発行日：2026年4月発行_Rev1

株式会社 **ホクシンエレクトロニクス**

〒010-0063 秋田県秋田市牛島西一丁目4-10
TEL018-837-0811 FAX018-837-0812

目 次

表 紙	1
目 次	2
環境方針	3
組織の概要、対象範囲と対象取組期間	4
実施体制（環境管理組織図）	5
表無内容及び責任と権限	6
環境経営目標とその実績	7
2025年1月～12月までの環境経営計画と実績	8
2026年1月～12月までの環境経営計画	9
環境活動の取組結果の評価	10
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	11
代表者による全体評価と見直しの結果：2023年5月実施	12
環境経営レポートについて	13

環 境 方 針

【基本理念】

株式会社ホクシンエレクトロニクスは、社会の一員であることを深く認識して、公平かつ透明な企業行動に徹するとともに、企業活動を通じて、「持続可能な開発目標」を考慮に入れて、活動して参ります。

【行動指針】

基本理念のもと、当社は、移動体通信機器用部品及び電子応用機器の組立ての製造メーカーとして経営全般にわたる環境影響を考慮し、以下に掲げる指針に基づく環境管理活動を推進します。

1. 当社は事業活動、製品及びサービスの性質・規模及び環境影響に対して適切な環境マネジメントシステムを構築し、環境保全活動に努めます。
2. 多くの化学物質とエネルギーを使用していることを認識し、事業特性が環境に与える影響を的確にとらえ、環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
3. 環境関連法令、条例、協定及び受入を決めたその他要求事項を順守し汚染の予防に努めます。
4. 環境に配慮した製品をお客様に提供していくことにより、有害化学物質等による環境負荷低減に努めます。
5. 当社の環境負荷に関わる次の項目を環境目的及び目標として優先的に設定し、毎年定期的に見直しを行います。
 - (1) 地球温暖化防止のため、エネルギーや資源の利用に伴う温室効果ガスを抑制するため、省エネ・省資源を推進してゼロカーボンに向けた活動を進めます
 - (2) 廃棄物の分別収集を徹底し、再資源化に貢献します
 - (3) 化学物質の理解と排出量・取扱量の継続的な管理を実施します
 - (4) 環境に対する負荷のできるだけ少ない物品等を優先的に購入するグリーン購入に取り組みます
 - (5) 多様な人材の登用などにより多角的な経営基盤の強化を図り、従業員とその家族の幸福度向上を目指します
6. 当社に従事する全ての人に環境教育を通じ本方針を周知するとともに、業務委託先や調達先等にも理解と協力を求めていきます。
7. 社内外からの求めに対し、環境方針を開示します。

令和6年 6月 3日

株式会社 ホクシンエレクトロニクス
代表取締役社長 佐藤 宗樹

《組織の概要》

1. 事業所名及び代表者氏名

株式会社ホクシンエレクトロニクス
代表取締役 佐藤 宗樹

2. 事業活動の内容

東工場 : フローコントローラー、樹脂成形部品の製造
西工場 : 半導体製造装置ユニット、配電盤、制御盤、
(A棟、B棟) 通信用アンテナ等の電子部品の製造
本社工場 : FPC、電子応用機器、ワイヤーハーネスの製造
開発部 : 新規商品の開発

3. 所在地

東工場 秋田県秋田市牛島東1丁目11-8
西工場 秋田県秋田市牛島西1丁目4-10
本社工場 秋田県秋田市牛島西1丁目4-10
開発部 秋田県秋田市新屋町砂奴寄4-11 (秋田県産業技術総合研究センター内)

4. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 鈴木 秀紀
連絡先 TEL 018-838-1018

5. 事業の規模

活動規模	単位	2023年	2024年	2025年
従業員	人	195	176	172
床面積	m ²	4,027	4,027	4,027

(人員については、事業所内の在籍者の年度末人数)

《対象範囲と対象取組期間》

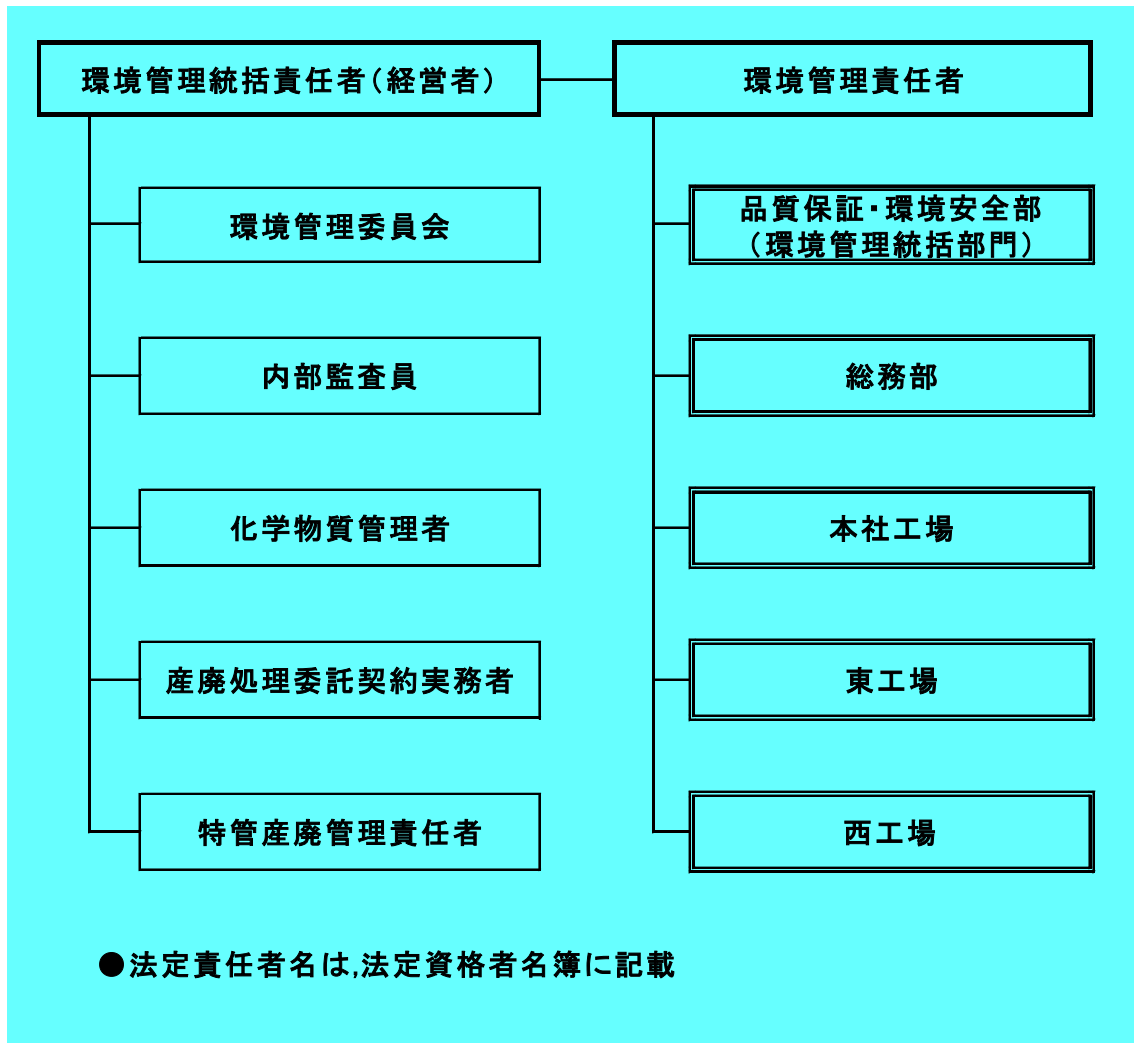
1. 認証・登録範囲

電子部品・ワイヤーハーネス等の製造、新製品の設計開発

2. 環境経営レポートの対象取組期間 2025年1月1日～12月31日

《実施体制（環境管理組織図）》

環境経営計画書に基づいて以下組織図の通り、総務部、本社工場、東工場・開発部、西工場の各サイトで作成した目標に向かって活動している。



経営者、環境管理責任者、法定の管理責任者、品質保証・環境安全部、環境管理推進責任者、環境管理推進者、部課長の役割については、次ページ「業務内容及び責任と権限」に示す。

業務内容及び責任と権限

組織	責任者	業務内容及び責任と権限
—	経営者	環境関連業務の最高責任者 1. 経営における課題とチャンスを整理し明確にする 2. 環境方針、目的、目標の設定 3. 環境経営マニュアルの承認 4. 環境経営システムの見直し 5. 環境管理責任者の任命 6. 環境経営システム実施の諸資源(人員・設備・費用)の決定
環境管理委員会	経営者	1. 委員の任命 2. 環境委員会の開催 3. システムの見直し審議 4. 環境目的、目標の審議 5. 利害関係者の情報審議 6. 内部監査結果の審議 7. 法規制、社会情勢の審議
内部監査チーム	環境管理責任者	1. 内部監査の計画、監査チーム編成、監査プランの作成、監査の実施 2. 監査結果の報告
—	環境管理責任者	1. 環境経営マニュアルの審査 2. 環境管理業務の統括 3. 環境経営システムの実施状況、問題点等に関する経営者への報告 4. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善と管理 5. 環境関連法規等要求事項の管理 6. 化学物質管理に関する業務 7. 内部監査の運用統括 8. 緊急事態発生時の対応の統括(緊急、是正処置報告の承認) 9. 関連会社、取引先への環境管理に関する業務統括
—	法定の管理責任者	1. 公害防止、廃棄物処理、設備維持に対する管理、指示、監督 2. 公害を発生させる施設の使用法の監視及びメンテナンス 3. 公害防止、廃棄物処理、設備維持に関する測定、記録 4. 事故発生時の処置
—	品質保証・環境安全部	1. 環境関連事務局(環境管理課)業務 2. 環境経営マニュアルの維持管理 3. 環境負荷の把握と測定 4. 環境方針の配付、環境目的および目標の作成と配付 5. 社内外からの環境情報の対応とまとめ 6. 環境関連法規等要求事項の収集、記録整理 7. 緊急事態発生時の対応と推進 8. 環境経営システム見直し会議の事務局(環境管理課) 9. 環境関連教育と環境情報の周知 10. 内部監査の計画・案内・報告書の配付 11. 全社教育・訓練の管理
各推進部署	推進部署の推進責任者と推進者	1. 推進部署の環境目的・目標の策定と周知 2. 推進部署の環境管理計画書の策定と周知 3. 推進部署の環境管理計画に関する運用、監視、維持
各部署	部課長	1. 自部署の環境業務の推進 2. 推進部署の環境管理計画に関する自部署の運用、監視、維持 3. 自部署の問題点の改善、是正及び予防処置の実行 4. 環境情報の伝達 5. 自部署の教育・訓練の管理

《環境経営目標とその実績》

1. 環境経営目標（中期目標）

① 2024年～2027年目標

	目的	目標	現状指標	計画	中期計画(年度別)				実行 責任部門	最終年度結果 (達成状況)	計画・実行の推移
					2024年	2025年	2026年	2027年			
1	・使用電力量削減 ・温室効果ガスCO2排出量管理	・2020～2023年比毎年△0.5% ・以降CO2排出量管理を継続	・毎年△0.5% ・排出量管理	4年	・△0.5%削減	・△0.5%削減	・△0.5%削減	・△0.5%削減	統括部門		・2020年度より本社工場が稼働して、2023年には本社工場に太陽光発電を導入した以降、使用電力量を毎年△0.5%を目指す。CO2排出量は管理を継続する
					・排出量管理継続	・排出量管理継続	・排出量管理継続	・排出量管理継続			
2	廃棄物削減とリサイクルの推進	再資源化率の維持・向上	2023年月平均 =72.5%	4年	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	統括部門		・2023年の月平均=72.5%となっているが、今後≤80.0%で維持・向上を目指す
3	リスク管理の強化	・緊急事態の対応	毎年実施	4年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	計画部門		・全社での通報・避難訓練の継続実施
		・リスクアセスメントの継続実施	全社避難訓練		継続実施	継続実施	継続実施	継続実施			・全部門で実施
		・安全衛生教育の実施	毎年適時実施		適時実施	適時実施	適時実施	適時実施			
4	省資源の推進	・デジタル化によるOA用紙 使用量の削減	複合機 カウンター	4年	紙媒体→デジタル化	紙媒体→デジタル化	紙媒体→デジタル化	紙媒体→デジタル化	各部門		・紙媒体→デジタル化を推進
5	社会貢献、SDGs活動の推進	・清掃活動・献血・ヘルソキャップ 収集・プルタブ収集	随時計画	4年	毎年計画	毎年計画	毎年計画	毎年計画	総務部門		・毎年計画 (SDGs 1.貧困をなくそう、3.すべての人に健康と福祉を、10.人や国の不平等をなくそう)
6	環境教育及びコミュニケーションの 推進	・環境教育(外部・内部)や協力 会社等とのコミュニケーション	随時計画	4年	毎年計画	毎年計画	毎年計画	毎年計画	統括部門		・毎年計画

●電力使用量削減については、△0.5%/年として4年間で△2.0%の削減を目指す。温室効果ガスCO2排出量については、全ての購入電力が再生可能エネルギーへ切り替えになり、2023年2月～本社工場へ太陽光発電機器システムを導入したことで、大幅にCO2排出量が減少したこともあり、排出量の管理を継続する。

●再資源化率については、従来の目標≥94.5%に対して再資源化率低下の要因（成形の難燃材料の一般廃棄物処理）に伴って、目標≥80.0%として、中期計画の4年間、目標を維持するための集計管理活動として進める。

2. 2025年1月～12月までの環境経営計画と実績

目標	主要施策	指標	計画 実績 判定	計画及び実績												実行 担当者	当年度最終結果 [目標達成状況]	最終 判定	
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
1	使用電力(kWh)量削減	・デマンド監視 ・省エネパトロールの継続	過去4年平均 △0.5%目標	計画	≤69,854	≤63,516	≤51,740	≤32,108	≤25,547	≤27,153	≤33,773	≤35,031	≤28,039	≤28,233	≤38,752	≤62,568	鈴木秀	2024年度比	
				実績	55,308kWh	53,300kWh	43,938kWh	32,122kWh	21,194kWh	23,475kWh	34,043kWh	30,866kWh	25,624kWh	27,457kWh	37,934kWh	50,843kWh		△7.4%と削減	◎
				判定	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
	温室効果ガスCO ₂ (kg-CO ₂)排出量管理	・化石燃料使用量削減とCO ₂ (kg-CO ₂)排出量管理継続	過去4年平均 △0.5%目標	計画	≤2,955	≤3,789	≤3,349	≤2,231	≤1,957	≤1,731	≤2,225	≤2,179	≤1,962	≤2,231	≤2,449	≤3,736	鈴木秀	目標を達成	◎
				実績	2,200kg-CO ₂	1,113kg-	2,135kg-CO ₂	1,240kg-CO ₂	1,473kg-CO ₂	1,450kg-	1,361kg-CO ₂	1,553kg-CO ₂	1,456kg-CO ₂	1,823kg-CO ₂	975kg-CO ₂	1,694kg-CO ₂			
				判定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
2	廃棄物減とリサイクルの推進	・分別と削減 ・リサイクルの推進	再資源化率 ≥80.0%目標	計画	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	鈴木秀	目標未達成	
				実績	79.5%	76.4%	76.2%	81.5%	85.9%	84.2%	81.9%	84.3%	87.0%	61.5%	84.2%	81.5%		2024年度比	○
				判定	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎		△1.6%と若干悪化	
3	リスク管理の強化	・緊急事態の対応 (通報・避難訓練の実施)	1回/年	計画	-	-	-	消防設備点検	-	-	-	-	-	訓練実施	-	-	鈴木秀	計画通り実施	◎
				実績	-	-	-	4/11実施	-	-	-	-	-	10/29実施	-	-			
				判定	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	◎	-	-			
	社会貢献、SDGs活動の推進	・リスクアセスメントの実施 ・安全衛生教育の実施 (教育準備と教育展開)	各部門目標 フォロー対応	計画	2件	2件	2件	3件	2件	2件	2件	3件	2件	2件	2件	3件	鈴木秀	目標若干未達成	
				実績	1件	1件	5件	2件	1件	1件	2件	1件	1件	1件	7件	2件		次年度も継続して	○
				判定	◎	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	◎	△		計画を進める	
4	社会貢献、SDGs活動の推進	・緊急事態の対応 (通報・避難訓練の実施)	1回/年以上 ・2回/年 ・随時実施	計画	-	-	献血	地域清掃	-	-	-	-	-	献血	-	-	鈴木秀	目標を達成	
				実績	-	-	未実施	4/21実施	-	-	-	-	9/5献血	-	-	-		2026年度も	◎
				判定	-	-	×	◎	-	-	-	-	◎	-	-	-		回収継続	
5	環境教育及びコミュニケーションの推進	・環境教育(外部・内部) ・協力会社支援(必要により)	随時計画	計画	資料収集	-	環境教育	-	環境教育	-	環境教育	-	環境教育	-	環境教育	-	鈴木秀	目標を達成	
				実績	2月実施	-	3/28実施	-	MR実施	-	7/29実施	-	9/26実施	-	11/26実施	-		2026年度も	◎
				判定	△	-	◎	-	△	-	◎	-	◎	-	◎	-		教育を計画する	

◎：目標達成、○：数値目標に対し達成度が75%以上100%未満、△：数値目標に対し達成度が50%以上75%未満、×：数値目標に対し達成度が50%未満

●購入電力量については、目標値に対して、△22%となった。

●温室効果ガス(CO₂)排出量については、前年比△29%となった。これは灯油・ガソリン・軽油の減少によるもの。温室効果ガス(CO₂)排出係数については、

購入電力：出光興産「プレミアムグリーンプラス」を契約を継続しており、再エネ指定の調整後排出係数=0.000kg-CO₂/kWhとなっている。

当社からの温室効果ガス(CO₂)排出量は、灯油・LPG・ガソリン・軽油からの排出のみとなっており、これらの排出量管理を今後も継続して進めて行く。

●総排水量(あるいは水使用量)については、2024年度実績=1,108m³に対して、2025年度実績=1,251m³となり前年比13%の増加となった。

●化学物質使用量については、PRT制度対象物質として半田に含まれるAg・Pb・Niが対象であるが、届出が必要な排出量ではなく該当しない。

3. 2025年1月～12月までの環境経営計画

	目標	主要施策	指標	計画 実績 判定	計画及び実績												実行 担当者	当年度最終結果 [目標達成状況]	最終 判定		
					1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
1	使用電力(kWh)量削減	・デマンド監視 ・省エネパトロールの継続	過去3年平均 △0.5%目標	計画	≤58,587	≤53,769	≤43,755	≤28,281	≤21,842	≤22,170	≤28,732	≤30,939	≤24,045	≤25,069	≤35,248	≤53,081	鈴木秀				
				実績																	
				判定																	
	温室効果ガスCO2(kg-CO2)排出量管理	・化石燃料使用量削減と CO2(kg-CO2)排出量 管理継続	過去3年平均 △0.5%目標	計画	≤2,883	≤2,547	≤2,792	≤1,755	≤1,840	≤1,432	≤1,586	≤1,929	≤1,662	≤1,656	≤1,245	≤2,528	鈴木秀				
				実績																	
				判定																	
2	廃棄物減とリサイクルの推進	・分別と削減 ・リサイクルの推進	再資源化率 ≥80.0%目標	計画	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	≥80.0%	鈴木秀				
				実績																	
				判定																	
3	リスク管理の強化	・緊急事態の対応 (通報・避難訓練の実施)	1回/年	計画	—	—	—	消防設備点検	—	—	—	—	—	訓練実施	—	—	鈴木秀				
				実績																	
				判定																	
		・リスクアセスメントの実施 ・安全衛生教育の実施 (教育準備と教育展開)	各部門目標 フォロー対応	計画	2件	2件	2件	3件	2件	2件	2件	3件	2件	2件	2件	3件					
				実績																	
				判定																	
4	社会貢献、SDGs活動の 推進	社会貢献、SDGs活動推進 ・献血の実施(時期未定) ・ペットキャップ、プルタブの収集	・1回/年以上 ・2回/年 ・随時実施	計画	—	—	—	地域清掃	—	—	—	—	—	—	—	鈴木秀					
				実績																	
				判定																	
5	環境教育及びコミュニケーション の推進	・環境教育(外部・内部) ・協力会社支援(必要により)	随時計画	計画	資料収集	—	環境教育	—	環境教育	—	環境教育	—	環境教育	—	環境教育	鈴木秀					
				実績																	
				判定																	

●エコアクション21ガイドライン2017年版に基づいて活動を進め、毎年の環境経営レポートによって状況を公表する。

《環境活動の取組結果の評価》

＜ 使用電力量削減:評価 ◎＞

- ① PCモニター電源、20分後OFF設定
- ② 休憩時間の天井照明の消灯
- ③ 事務部門、廊下、倉庫等の天井灯りの間引き（安全優先で対応）
- ④ 無人エリアの冷暖房スイッチOFFやタイマーによる制御
- ⑤ 毎週1回の定時退社日の設定と省エネパトロールの継続実施
- ⑥ LED照明への切り替え拡大を実施して節電を図る

＜ 廃棄物削減とリサイクルの推進 :評価 ○＞

- ① 一般廃棄物、産業廃棄物の分別と削減
- ② リサイクルの推進

年トータルとして18.5ton排出し、14.6tonを再資源化处理。再資源化率は78.9%となった。年間通しての目標であった $\geq 80.0\%$ に対しては、若干未達成となった。

＜ リスク管理の強化 :評価 ◎＞

- ① 緊急事態の対応（通報・避難訓練の実施）：10月に実施
- ② リスクアセスメントの継続実施：21件/2024年度、27件/2025年度となり計画通り達成した。

＜ 社会貢献活動の推進 :評価 ◎＞

献血活動：2025年3月と10月に2度実施した。

社会貢献活動については、地域清掃の他にペットキャップの回収及びプルタブ回収を継続実施中。

＜ 環境教育及びコミュニケーションの推進 :評価 ◎＞

- ① 環境教育（外部・内部）
内部講習として環境管理委員会の中で、5回計画に対して4回実施した。
（温暖化、廃プラ処理、省エネ、工場毎のCO₂と電力）
- ② 協力会社支援
協力会社に対する支援実績はなかった。

《環境関連法規への違反、訴訟等の有無》

1. 環境関連法規、要求事項 抜粋

適用欄記号(◎:法規制等適用、○:自主的適用)
 遵守評価記号(○:遵守している、×:遵守していない)

No.	法令・条例名	法的要求事項			環境負荷	適用	遵守評価
		法令要求事項(条項抜粋)	届出	測定点検			
1	騒音規制法	特定施設振動規制法施行令別表第一:合成樹脂用射出成形機	有	有	無	第3種区域	◎ ○
2	振動規制法	特定施設騒音規制法施行令別表第一:合成樹脂用射出成形機	有	有	無	第2種区域	◎ ○
3	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物処分委託業者の契約 マニファストの交付回収	無	無	有	保管庫マニファスト委託契約	◎ ○
4	消防法	危険物の貯蔵、取扱い	有	有	有	現場保管庫O2未満	◎ ○
5	労働安全衛生法	作業主任者選任、特殊健康診断	有	有	有	有機溶剤半田等	◎ ○
6	使用済自動車の再資源化等に関する法律	使用済自動車の引取業者への引渡	無	無	無	社有車の廃棄時	◎ ○
7	建築工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建築資材廃棄物再資源化費用の負担、再資源化資材の使用	有	無	無	80㎡以上の解体工事	◎ ○
8	電気・電子機器含有特定危険物質使用制限(RoHS)指令	EU圏で使用される電気・電子機器への特定物質使用制限	無	無	無	EU圏への輸出製品なし	◎ ○
9	プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律	プラスチックに係る資源循環の促進等を図る。事業者による自主回収及び再資源化を促進	無	無	無	プラスチック製品の設計から排出・回収・リサイクル	◎ ○

※2025年12月31日付において、環境関連法規の遵守状況を確認し問題なし

2. 違反・訴訟等の有無

当社における環境関連法規への違反は、過去10年間ありません。また、関係行政機関からの違反等の指導は特に無く訴訟を受けたこともありません。更に、近隣地域住民からの苦情もありませんでした。

《代表者による全体評価と見直しの結果：2025年5月実施》

[議事内容]

1. 環境管理統括責任者への報告（環境管理責任者及び統括部門説明）

- ① 内部環境監査の結果、法的要求事項及び組織が同意するその他要求事項の順守評価の結果
- ② 苦情を含む外部の利害関係者からのコミュニケーション
- ③ 組織の環境パフォーマンス
- ④ 目的及び目標が達成されている程度
- ⑤ 是正処置及び予防措置の状況
- ⑥ 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ
- ⑦ 環境負荷に関係した法的及びその他の要求事項の進展を含む、変化している周囲の状況
- ⑧ 外部審査による指摘事項
- ⑨ その他経営的見地
- ⑩ 環境管理責任者からの改善のための提案

2. マネジメントレビュー評価結果（環境管理統括責任者）

レビュー項目	レビュー観点	判定 ※	備考
環境方針	環境方針は適切か	○	2024年6月3日付け
環境管理組織	環境管理組織は妥当か	○	2025年5月28日に見直し改定
環境経営マニュアル	E A 2 1 要求事項に適合しているか	○	2025年5月28日 21版改定・発行
環境目的・目標 及び 実施計画	環境目的・目標は達成されているか 各項目は、計画通り達成されているか	○	状況変化や未達の計画に関し 計画の見直し・遂行に注力
環境マネジメント システム	EMSは規格要求事項に適合しているか EMSが効果的に実施され、維持されているか	○	見直し・改訂が必要な文書の 順次改定を進める

※判定：EMSの適切性、妥当性、有効性（○→良、△→やや不良、×→不良）

3. 経営者からの今年度の指示事項

- ① 太陽光発電システムについては、現状は調整しつつ稼働させている。5/27については2/3程度の電力がまかなえていた。約400kWhとなっていて、一般家庭の1ヶ月分に相当する。
- ② 事例として、ある会社で使用不可の化学物質を使用していた。稀な化学物質が含まれていたという事例になるが、当社としても過去にpbフリーはんだを使用すべきところ、共晶はんだを使用して回収したという実績があるので、今後についても注意する必要がある。

《環境経営レポートについて》

この環境経営レポートは、ご希望の方に差上げています。ご希望の方は、当社窓口にお申し出いただくか、下記にご連絡下さい。また、エコアクション21中央事務局のホームページ (<http://www.ea21.jp/>) や弊社ホームページ (<http://www.hokushin-elec.co.jp/>) でもご覧いただけます。

次年度の環境活動レポートについては、2027年3月～4月に発行、公開予定。

〒010-0063 秋田県秋田市牛島西一丁目4-10

株式会社ホクシンエレクトロニクス

環境管理責任者 鈴木 秀紀

TEL018-838-1018